

## 会議録

会議の名称	第4回 西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	令和5年5月18日（木曜日）午後3時から5時まで
開催場所	イングビル3階 第4会議室
出席者	委員：飯島享委員 木崎英司委員 桐木美里委員 指田泰弘委員 清水晋委員 平松沙彩委員 保谷隆司副会長 松川紀代美委員 松崎諭志委員 事務局：高橋泰彦生活文化スポーツ部長 後藤幸男産業振興課長 菅野浩一郎産業振興課商工係長 小池桃子産業振興課主任 遠藤集徳産業振興課主任 コンサルタント：(株)梵まちづくり研究所 黒丸結奈 栗原唯香 仙波樹果
議題	①令和5年度の策定スケジュールについて ②第2次産業振興マスタープラン策定に向けた課題について ア 基礎調査結果の報告 イ 次期計画において対応すべき課題 ③計画素案の作成について ア 計画の構成 イ 計画策定におけるキーワード ウ 取組みの方向性
会議資料の名称	次第 第3回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会 会議録（案） 資料1 西東京市第2次産業振興マスタープラン 策定スケジュール（令和5年度修正） 資料2-1 事業者・消費者アンケート結果概要 資料2-2 事業者・消費者アンケート自由意見 資料3 西東京市第2次産業振興マスタープラン策定に係るヒアリング調査実施結果 資料4 ヒアリング調査結果概要 資料5 西東京市の産業振興における現状と課題の整理 資料6 西東京市第2次産業振興マスタープラン 構成案 資料7 今後の西東京市の産業振興を考えるためのキーワード 資料8 取組みの方向性の示し方
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○事務局： 定足数に達しているため、第4回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会を開会する。</p> <p>○事務局： 《令和5年4月1日付人事異動に伴う事務局の交代について紹介》</p> <p>2 委嘱状交付 《生活文化スポーツ部長より交付》 《会長の決定》</p>	

《傍聴者確認 傍聴者3名の出席を許可》

- 3 第3回会議録（案）の承認  
《第3回会議録（案）を承認》

4 議題

① 令和5年度の策定スケジュールについて

○事務局：

《資料1に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

《意見・質問なし》

② 第2次産業振興マスタープラン策定に向けた課題について  
ア 基礎調査結果の報告

○事務局：

《資料2-1～2-2に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

《意見・質問なし》

○事務局：

《資料3～4に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

《意見・質問なし》

イ 次期計画において対応すべき課題

○事務局：

《資料5に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について各委員の意見を順番に求める。

○委員：

消費者は欲しいものやサービスの購入先を使い分けられていると考えられる。都心へのアクセスの良さが消費の市外流出につながっているのは致し方ないので、西東京市の特性をどのように見出すかがポイントとなる。イベントの開催、空き店舗対策といったにぎわいの創出が課題であると考えられる。

西東京市ブランドについて、市では地域資源の把握は済んでいるはずなので、それをどう活用するかを考える必要がある。産業振興課がどこまで所掌事項を広げていくのかも課題となる。外部から人を呼ぶためには西東京市らしさをPRすることも必要である。

東京都の産業労働局が東京ロケーションボックスを設置しており、登録されるとロケ地の候補となることができる。こういったものを市が各施設管理者に登録を促すという方法が良いのではないかと考える。また、テレビ番組の取材の受け入れ等も一過性ではあるが、西東京市を知ってもらう手段となる。アニメも利用できる。

障がい者、高齢者雇用については総合計画、福祉計画と産業振興マスタープランが紐づけられているかよく確認して頂きたい。

コロナと物価高騰についてはトレンドなので、10か年の計画に取り入れるべきではないと考えるが、必要に応じて各種対策については検討する必要がある。

○委員：

多様な働き方が大事だと考える。今後は会社に勤めつつ、副業をすることが当たり前になる可能性もある。個人事業主が経営する店舗に子どもたちが通い、働き方を身近に学べる機会が創出される点や、市がサステナブルで自分らしい働き方をサポートすることで、「自分らしく生きる人がたくさんいる」という点を西東京市のブランドとするのも良いのではないかと考える。

○委員：

若者が多く、大学もあるので、大学生に特化したまちづくりをするのが良いのではないかと考える。店舗運営など、活動の機会を求めている学生は多く、それらを実現することで活気も生まれる。より開けたコミュニケーションや関係性を重視する必要がある。

○委員：

まだ地域の中にも知られていない「食」もあるのではないかと考える。観光資源は少ないが、「食」をブランドと結びつけることで西東京市への来訪意欲を高めることも可能であると考える。

○委員：

事業者にはコロナの影響が残っていることを再確認した。「多様な『しごと』が生まれ循環するまちをつくる」について、多様化する消費者のニーズに対応する商品やサービスを提供することが大切である。また、時代の流れが早い中での課題に対する取組みが今後必要になると考える。

○委員：

新たな起業・創業について、西東京市は新規設立法人・事業者が多い。アクセスの良さからテストマーケティング的な場所として捉えられている可能性もあり、事業規模が拡大した際の他市への流出も考えられるが、幅広い世代に向けた起業・創業支援の取組みは必要である。

大学等との連携は必要性和実現可能かという点について検討する必要がある。

商店街の活用は今後の人口増減も踏まえて取組みが必要だと考える。

西東京市ブランドについては市内の良さを再認識することや、来訪者を増加させるために、観光協会の設立等の取組みを計画に盛り込むのも良いのではないかと考える。

○委員：

西東京市ブランドについて、大分県のロケ振興課のような活動はイメージ向上等もするため、ブランド作りとなるのではないかと考える。ターゲットを絞ってどのように人を増やすのかがポイントであり、そのうえで、働き方や子育てについて多様化を見据えたサポートを行うのが良いのではないか。

障がい者雇用等の支援は本人だけでなく、その家族にも関わるものであり、取り組むべきものだと考える。

○委員：

西東京市は農地の貸借が他市に比べて進んでいる。農のプラットフォームで幅広く情報を得て、発信することで、より貸借を進め、農家以外の方が農業を始めやすい西東京市となるよう、活動を進めていくと同時に、これを産業振興マスタープランでも生かしていきたい。

ひばりが丘の北口のロータリーについて、周辺の空き店舗が多く、それについての検証が必要である。

西東京市ブランドについては、原材料の生産から製造までをワンストップでできると良い。農業は農家の他に、貸借を核に、外部の人に参加してもらう必要がある。

○会長：

様々な視点から、西東京市のブランド、観光への取組、コロナ対策、多様な働き方、コミュニティ、消費者ニーズ、副業、農業、子育て、創業支援等色々なキーワードがあった。ここまでの発言について、事務局からの意見を求める。

○事務局：

どの視点も産業振興を捉える上で大切だと再認識した。どこまでを産業振興の範囲とするか、また今後10年間を見据えて、実現性、実効性の高い計画にしていくべきであると感じた。

### ③ 計画素案の策定について

#### ア 計画の構成

○事務局：

《資料6に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について各委員の意見を順番に求める。

○委員：

新しい構成案の方が良い。以前のものは、抜けは無いが読みづらい。

○委員：

市民を意識した提案であり評価すべきである。分析結果や資料が後ろに記載されることで、背景がわかりづらくなる可能性はあるが、第3章の「現状と課題」の箇所に必要なものを記載できるのであれば問題ないと考えます。

○委員：

資料をぱっと見てわかりやすいと感じたため、新しい構成案の方が良い。

○委員：

まず目を通してもらうことが大切なので、新しい構成案の方が良い。わかりやすい資料であれば読み進めてもらえるので、背景等のわかりづらくなってしまふ懸念がある箇所も、自然と興味を持って読んでもらえるのではないかと考える。

○委員：

新しい構成案の方が良い。わかりやすく見やすく、項目も絞ってあって目を引く。

○委員：

読みやすくなっているため、新しい構成案の方が良い。市民に身近なものとして産業振興を知ってもらうためにも、このように構成を変えた方が読み手は理解しやすい。

○委員：

新しい構成案の方が読み手にとってもわかりやすいので良い。また、以前の構成のように「目標」とすると事業者目線になってしまうので、新しい構成案のように、「産業振興と市民の関わり」というのがわかるのは良い。

○委員：

新しい構成案の方が良い。特に、第3章でそれぞれの分野ごとに「現状と課題」と「具体的な施策」が続けて記載される点について、よりつながりがわかりやすくなるため良いと感じる。

○会長：

従来の構成から、今回の新しい構成案に変化させていくという形は良かったのではないかと考える。ここまでの発言について、事務局からの意見を求める。

○事務局：

各委員からご賛同頂いたので、この方向性で計画策定を進めていく。「伝わるように」、「市民との関わりを示す」、「現状・課題と各取組みの内容がリンクしているか」等わかりやすさのポイントもご教示頂いたので、その点を留意しながら進めていく。

イ 計画策定におけるキーワード

○事務局：

《資料7に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

○委員：

「つながり」「支える」「まち」「人」「未来」「その他」という網かけになっているカテゴリ分類は、調査の中でどのように抽出したのか。

また、このキーワードは今後何に使うのか。

○事務局：

網かけになっているカテゴリ分類については、沢山のキーワードをまとめるためのもので、深い意味はない。

資料7の右側に示されているキーワードは、アンケートやヒアリング調査の中で出てきた言葉がベースとなっており、各委員のファーストインプレッションを伺うために提示したものがあある。「将来像」や説明文等で使用する予定で、市民や事業者の思いも含めた計画作りをしたいと考えている。

今回の意見を踏まえて、次回事務局案を何案か提示する予定である。

○会長：

ただ今の説明内容について各委員の意見を順番に求める。

○委員：

「つながる」「そだてる」といった漸進的に物事を考えていくというイメージは必要であると考ええる。

「やわらかい」「あたたかい」というイメージが想起されるワードも良いのではないかと考える。

○委員：

「つなぐ」「そだてる」「うみだす」といった能動的なイメージが良い。また、施策群や事業群をつくる際に、キーワードにこだわったものを先に決めてしまうと、マッチングなくなる恐れがある。市としてのスタンスを共有することで、計画との整合性を確認していく必要がある。

○事務局：

将来像は、しばらくは検討中として終盤まで変更可能な状態にしておく予定である。具体的な取組みとの整合性も常に意識しながら検討して頂きたい。

○委員：

「つながる」「助け合う」「自分らしく」「多様な」などあたたかいイメージの言葉が良い。一方で、「子育て」や「子ども」という言葉は出てこないのかと疑問に思った。

○委員：

「つながる」「はぐくむ」「うみだす」は良い循環が起きているというイメージが持てる。「コミュニティ」「応援する」「チャレンジできる」というのは失敗しても大丈夫という印象を持った。

○委員：

「コミュニティ」「支える」「トライ」という言葉が良い。資料7の左側の図の4つの丸の中の「つくる」という文字がひらがなになっていることで、この文章の時はどのような漢字を使うのか、などといったことを読み手が考えるようにもなるので、「つくる」も良いと感じた。また、普通ではあるが、「優しい」「楽しい」等はまちに対して住民が思っていることの一つとしてあれば良いと感じた。

○委員：

「応援する」「サポート」「支える」「挑戦」「変化」が良い。商業、ものづくり、サービス業等を考えると、事業者を応援する、サポートするというイメージとつながる。

○委員：

コロナによって事業者ごとのつながりが分断されてしまったという点から「つながり」という言葉が良い。事業者と事業者、事業者と市民をつなげるハブに我々になることができれば良いという思いがある。包括的に前進するために我々がバックアップしているということが伝わってほしい。

○委員：

「これから」という言葉が良い。「未来」という言葉に比べて身近に感じるとともに、現在からつながっているという感じがある。

○会長：

やわらかいイメージ、あたたかいイメージをはじめとした様々なキーワードや意見を頂いた。ここまでの発言について、事務局からの意見を求める。

○事務局：

各委員から市民を意識したワードをもらった。それぞれの目線も反映されていたように思う。全体を示す将来像と分野的ごとの取組みの方向性を示す部分にうまく組み込んでいきたい。引き続き検討課題として残るので、今後も議論を重ねていきたい。

#### ウ 取組みの方向性

○事務局：

《資料8に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

○委員：

行政計画は堅い印象があったが、今回の産業振興マスタープランは読者が読みやすい、やわらかい文章になるのではないかと期待がある。そういった面が取組みの方向性の示し方にも表れるのではないか。

○委員：

表を横に見たとき、例えば「西東京市ブランド」の場合は市があるべき姿を市として示していくという性質だが、「しごと」は市民が身近に感じるということ異なる性質を持っている。そのため、今表を縦に見たときに提示されているような視点で整理してしまっても問題が無いのか疑問に感じる。性質を優先して考えないと、我々が考えているものとずれたものになる可能性がある。

○事務局：

先に枠を決めてそこに当てはめていくよりも、本当に伝えるべきことは何かを考えて

文章を選ぶということは大切であると考え。より分かりやすい計画にするため、留意していく。

## 5 その他

○委員：

第2次産業振興マスタープランを策定するうえで、現行計画を引き継ぐ形にするのか、ゼロから作り直す形にするのか、どちらにしても現行計画の総括をどのようにどこに載せるのかは構想の中にあるか。

○事務局：

現行計画の総括は計画のどこかに載せるべきであると考えている。現時点では、策定に当たっての背景として頭出しをするほか、細かい評価の結果や課題の整理等は資料編や分野ごとの取組み内容とセットで載せるという方向を提示している。現行計画の評価に当たる部分は必ず記載する。

○委員：

現在は、基幹となる総合計画に産業振興マスタープランがどのように位置づけられるかが見えていない状態である。その位置づけが、どこでこの委員会にフィードバックされるのかを意識して頂きたい。

「地域資源の活用」や「西東京市ブランド」は産業という分野だけではカバーしきれない課題だと考える。実現性という点から、それぞれの分野の計画を結び付け、計画策定後に庁内で計画のまたがる分野をリンクさせるという検討が必要であると感じる。

○事務局：

総合計画の進捗として、現在は内容的に示せるものが増えてきており、9月にはかなり書き込んだものを示すことができる予定である。事務局も、次回以降の策定委員会では、総合計画ではどのような書き込みがされ、どのように整理されているのかを示しながら、それらを踏まえて資料を作成していく。また、進行管理の部分について、庁内でどのようなことができるのか引き続き検討する。

○事務局：

《次回委員会は7月を予定》